

まってるすけ高柳

【地域における活動の視点】

「人口減少の中でも幸せ感をはぐくむ！」を考える

新潟産業大学付属柏崎研究所
主席研究員 春日俊雄

【はじめに】

近年、人口減少と共に日常生活を取り巻く社会の変化がますます速くなって、これまでの活動の仕組みや対応がうまく機能しなくなっている。人の身体に例えると古い細胞を壊し、新しい細胞を生成して入れ替えながら機能を維持・持続しているように、地域社会もこれらの変化に対応した新たな仕組みや組織などを生み出し、地域の持続化を進めることが求められている。

【地域エコシステムという考え方】

エコシステムとは、もともと生態系の関係性を表す科学用語で自然界において同じ地域にいる生物や植物が互いに関わり合い依存しながら生きている仕組みをいう。ビジネスの世界では1990年代ごろから急速な技術革新やグローバル化を背景に、激化する競争に企業同士が互いに協力し、部品の製造、組み立て、販売等をおこない、「業務システムの刷新」「経営の高度化」「迅速な対応」等によって成果をあげてきた。地域づくりの分野では、2021年に佐野淳也氏が「小規模自治体における内発的地域イノベーションシステム・エコシステム」を「地域の生態系や文化をベースに、住民生活の基本的ニーズや住民の協力で多様な主体の協働に基づく自律システム」と定義している。

私は地域内の自律的な「つながりと支え合い」だと思っている。

地方や農山漁村地域は人と人、人と自然、人と文化・歴史の濃密な関係性の中で地域社会の仕組みや組織が出来上がってきたところであり、急速な人口減少や超高齢社会等の激変に対応した新たな地域エコシステムに向けて大きな節目に直面している。

【提案—地域における活動の視点】

当初設定のテーマは「人口減少の中でも元気な地域をつくる」だった。延べ30回にわたり、行政やコミセン、農業、商店街等の関係者にヒヤリングや意見交換を行う中で幸せ感をはぐくむ「コトとしての活動」が注目され、活動の結果として振り返った先に「元気な地域になっていた！」というのが「地域発のコトづくり」なのではないかと考えて次のような提案をまとめた。

- ① 地域の子カラ(魅力)を示す・魅(み)せる＝自然や風土、文化をベースに魅力や価値を見出す、必要に応じて地域内のつながりをつくる、外とつながる若い人たちと既存の共同体が連携する
- ② 外の人とつながりをつくる
- ③ 実際に試して見る＝七転び八起き、情報の共有、ゆるいつながりの構築

今後さらに多様な方々との意見交換で、日々の幸せ感をはぐくむ活動の視点がより深化していくものと期待している。

(以上、柏崎日報新春特別号掲載文を本人加筆修正の上、転載させていただきました。)